

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380723

研究課題名(和文) キャリア開発を通じた産業・地域エンパワーメントに関する調査・研究

研究課題名(英文) Research on Industrial and Regional Development through Empowerment of Foreign workers by Social Inclusion and Autonomous Career Development

研究代表者

荒川 一彦 (ARAKAWA, Kazuhiko)

近畿大学・経営学部・教授

研究者番号：10434846

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：私たちは、日本における外国人労働者、特に日系ブラジル人を中心に、2013年から研究と調査を行ってきました。彼らの社会包摂を把握するため、東海・美濃加茂地域でのインタビュー調査を行い、さらに大阪、東海地域の多様な分野と対象に現在もフィールド調査を続けています。本研究を通して、社会理論の様々な概念を適用し、外国人労働者の社会包摂プロセスモデルを提出しました。本研究は、1)日本の製造業現場で安定した地位を獲得した日系ブラジル人労働者のキャリア・パスと理念モデル。2)彼らの長期キャリアへの影響要因。3)彼らのエンパワーメント(効力化・活性化・自律化)、特に組織的社会的化の要因・諸条件の抽出しました。

研究成果の概要(英文)：We have been conducting research and studies since 2013 with a focus on the Japanese Brazilians as immigrant workers in Japan. We started the interview-based research undertaken in the Minokamo region located in the Tokai area to grasp the overview of the social inclusion of Brazilians. We are still conducting the field researches in multiple samples in different areas like Osaka and Tokai. Through these researches, we intend to reveal examples and models of the process of their social inclusion with adoption and adaptation of concepts of social theory. Our research intends to clarify; 1) patterns and models of career-paths of the Brazilian workers who came to get a stable position in the manufacturing industry in Japan; 2) influential factors regarding the Brazilian's long-term career; 3) enabling conditions and factors for the empowerment of Brazilian employees, especially in organizational socialization

研究分野：経営学、産業社会学、組織論、キャリア論、経営情報論

キーワード：キャリア エンパワーメント 組織社会的化 外国人労働者 日系ブラジル人 企業文化 人事政策 異文化経営

1. 研究開始当初の背景

国連統計によれば、2015年の世界の移民数は2.4億人に達している。一方、日本の在留外国人は212.2万人で総人口比1.7%に過ぎない。これは在留外国人が総人口の10%を超える欧米先進国に比べて極めて少ない。一方、若年労働力の不足を背景として、日本政府は単純労働力の受け入れを条件付きで開始した。特に1990年の「難民認定・移民管理法」の改正により、日系ブラジル人の日本国内での就労が無制限に許容され、多数のブラジル人が流入した。不況期の増減はあるものの永住者数は着実に増加している。2015年現在、国内の外国人労働者は3年連続の過去最高で90万人、それでも就労人口の1.4%に過ぎない。

我々は、既に2013年より日系ブラジル人労働者の日本国内での就業に注目し、調査・研究を進めてきた。東海・関西地域での現地調査で明らかになったことは、彼らが生活時間のほとんどを過ごす国内企業内部の実態に関し、行政・中間団体からの実務的対応も、また学術的研究も、極めて少ない、という点である。一方、新規参加者の組織適応に関する研究は、組織社会化研究として、キャリア論と組織行動論の双方で多くの研究蓄積がなされている。

2. 研究の目的

本研究は、日本国内の代表的な外国人労働者である日系ブラジル人労働者の、日本の就労現場への組織適応とキャリア開発について考察するものである。その際、1) 組織社会化とキャリアに関する視点を整理し、2) 日系ブラジル人労働者へのインタビュー調査の分析を紹介する。特に企業戦略・文化による組織社会化戦略の相違と成否に関する仮説的報告を行いたい。本研究は、こうした分析を通じ、外国人労働者、特に日系ブラジ

ル人労働者の日本企業の就労現場への適応とキャリア形成の実態を明らかにし、効果的な組織社会化プロセス、また、地域活性化への視点を仮説・提出するものである。

3. 研究の方法

本研究は、アクションリサーチを志向する研究方法を採用した。アクションリサーチとは、当事者との反省的対話(沼上, 2000)を重視する研究方法であり、当事者からのフィードバックを得ながら、理論構築を進めるものである。その際に研究者は、当事者との反省的対話を通じた「意識化」を図ることを強く意識し、利害関係者と協働しながら現状の改善に寄与する理論の導出を企図した。具体的内容は、質的データ(インタビュー調査等)・量的データ(アンケート調査)の収集蓄積に努め、その整理検討に基づき、キャリア形成・社会組織化要因の抽出を行い、概念モデルを提出した。

本研究グループは、経営学を中心としつつも、産業社会学、経営組織論、キャリア論といった学際的な視点から、エンパワメントの枠組みを形成するキャリアデザインの解明にあたった。

4. 研究成果

2013年のプレ調査以来、探索・発見型の質的調査を広く企業、行政、中間団体・NPOを対象に行い、半構造化インタビューを重ねてきた。その後、企業調査に注力して、最終的には、大阪、東海地区の特徴的な製造請負・派遣事業社2社を対象にインタビュー調査とアンケート調査を複数回行い、データを蓄積・分析した。両社は、厚生労働省の委託事業である「優良派遣事業者認定制度」により認定された優良業社である¹。それぞれの事業

¹ 優良派遣事業者認定制度とは、一定の基準を満たした派遣事業者を「優良派遣事業者」として認定する制度である。2015年度現在、137社が認定されている。

展開する地域、企業戦略に特徴があり、また、各社に登録するブラジル人労働者のキャリアと就業にも、類似点とともに、違いが見られた。

3年間の研究では、日本国内の代表的な外国人労働者である日系ブラジル人労働者の、日本の就労現場への組織適応とキャリア開発について広く調査・研究した。経年の調査・研究から、1) 組織社会化とキャリアに関する視点を整理し、外国人労働者とその生活の大部分を過ごす製造業の労働現場への視点・分析が行政等の実践的にも、また学術研究からもアプローチが極めて少ないという点を確認し、2) 先行研究レビューから、国内外ともに移民・外国人労働者のキャリア研究が極めて限られている点を確認した(谷口2014年)。また、3) 日系ブラジル人労働者へのインタビュー調査を整理して、これまで明らかになっていなかった日系ブラジル人労働者の日本国内での長期キャリアパスを明確にして「キャリア段階モデル」として提示し、同時に円滑な組織社会化・キャリア開発への影響要因を仮説提出した。4) 特に最終年度には、管理職クラスの日系ブラジル人役160名のアンケート調査も加え、異なる企業戦略・文化による組織社会化戦略・人事施策の相違と成否に関する分析を行い、現在も進行中である。

こうした分析を通じ、日系ブラジル人労働者の日本企業の就労現場への適応とキャリア形成の実態を明らかにし、効果的な組織社会化、地域活性化への視点を仮説提出している。日系ブラジル人労働者のライフストーリーより抽出した「日系ブラジル人労働者のキャリアパスと組織社会化要因」(谷口2014年、Arakawa et al.2015年)の仮説モデルを、特にY社の3人のサンプルを加えることで洗練・提示し、国際学会に査読付き論文を提出受理され、大会報告している(Arakawa et al.2016年等)。

5. 主な発表論文等

<主要成果>

[雑誌論文](計14件)

荒川一彦「外国人労働者のキャリアと組織社会化戦略～日系ブラジル人労働者の職場・地域への社会包摂に関する研究～」人材育成学会2016年度大会論文集、査読無、2016 pp.31-34

荒川一彦、東郷寛、谷口智彦、
「Organizational Socialization and Career Development of Foreign Workers in the Era of Global Migration」the EGOS Colloquium Paper (欧州組織学会(EGOS)第32回大会報告論文、査読有、2016 total -pp.21

荒川一彦、東郷寛、谷口智彦、
「Empowerment of Foreign workers by Social Inclusion and Autonomous Career Development」the EGOS Colloquium Paper (欧州組織学会(EGOS)第31回大会報告論文、査読有、2015 total-pp.26

谷口智彦、「日系ブラジル人労働者の長期的キャリアの考察」、商経学叢(近畿大学)、第62巻1号、査読無、2015 pp.61-93

吉田忠彦、「NPOの協働」(『NPO・NGOのキャパシティ・ディベロップメント』1巻、関西国際交流団体協議会、査読無、2015、pp.18-25

谷口智彦、「日系ブラジル人労働者のキャリア研究の射程と課題」商経学叢 第61巻第2号 査読無、2014、pp. 77-102

[学会発表](計10件)

荒川一彦、「外国人労働者のキャリアと組織社会化戦略～日系ブラジル人労働者の職場・地域への社会包摂に関する研究～」

人材育成学会 2016 年度、2016 年 12 月 3 日、東北大学、宮城県)

荒川一彦、東郷寛、谷口智彦、

「Organizational Socialization and Career Development of Foreign Workers in the Era of Global Migration」、欧州組織学会 (EGOS) 第 32 回大会報告、2016 年 7 月 3 日 ナポリ・イタリア

荒川一彦、東郷寛、谷口智彦、

「Empowerment of Foreign workers by Social Inclusion and Autonomous Career Development」、欧州組織学会 (EGOS) 第 31 回大会、2015 年 7 月 4 日 アテネ・ギリシャ

東郷寛、吉田忠彦、「From Network Management to Inter-sectoral Management: Public managers acting the role of “institutional entrepreneur” in an emerging policy field」欧州行政学会 (EGPA)、2014 年 9 月 11 日、スバイヤー・ドイツ

〔図書〕(計 3 件)

東郷寛、吉田忠彦、山田雄久、市川文彦、井上祐輔、「Framing Processes for an Institutional Change of a Japan's Porcelain Production Area」In C. Boari, T. Elfring & X. Molina-Morales (Eds.), Entrepreneurship and Cluster Dynamics (Ch. 9). Abingdon, UK: Routledge., 2016, pp.172-202

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川 一彦 (ARAKAWA Kazuhiko)

近畿大学・経営学部・教授

研究者番号 : 10434846

(2) 研究分担者

東郷 寛 (TOGO Hiroshi)

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号 : 10469249

吉田 忠彦 (YOSHIDA Tadahiko)

近畿大学・経営学部・教授

研究者番号 : 20210700

谷口 智彦 (TANIGUCHI Tomohiko)

近畿大学・経営学部・准教授

研究者番号 : 70581164